

《県営ほ場整備事業》 南城市 浜崎地区

地区の概要

佐敷町は沖縄本島南部の東側に位置し、昭和49年に農業振興地域に指定され、サトウキビを中心に、野菜、花卉、熱帯果樹などが栽培されている農業地域です。

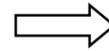
当該地区は、受益面積80.4ヘクタール、事業費10億6,700万円により、昭和60年度～平成9年度にかけてほ場整備をした地区です。



浜崎地区位置図



事業実施前(S60年撮影)
— 受益界



事業実施後(H14年撮影)
— 受益界

事業実施前は狭小で不整形な耕地が散在していましたが、事業実施後は区画が整理され、整然とした農業地域へ変貌しました。

生産力の向上を求めて



人によるサトウキビの収穫



人によるサトウキビの畑からの搬出

不整形で凹凸のある畑は、ほとんどが人力による農作業体系であり、低生産性農業を余儀なくされていました。生産性を向上させるためには、機械化農作業体系を確立する必要があり、ほ場整備が強く望まれました。

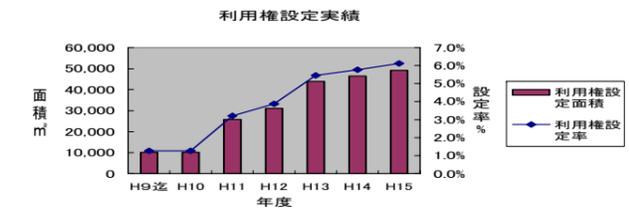
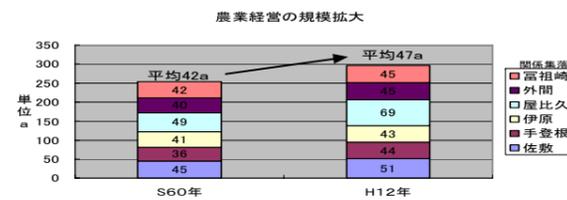
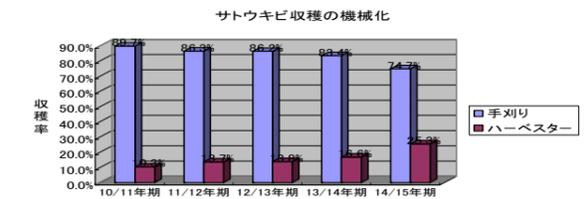
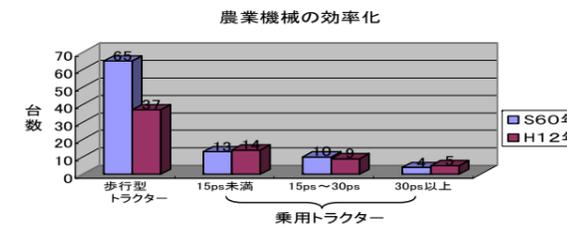
事業実施の効果



乗用トラクターによる営農



ハーベスターによるサトウキビの収穫



事業実施後は農業機械作業の効率化とともにハーベスターによるサトウキビの収穫作業ができるようになり、農作業の省力化が図られました。さらに利用権設定等による農業経営の規模拡大が図られました。

更なる向上 ~水を求めて~



ビニルハウスの設置



露地野菜(オクラ)の栽培

省力化が図られた結果、余剰労力が生まれ、サトウキビ単一農業経営から野菜等と併せた複合経営への変化が観られ、経営の多角化が進んでいます。しかし農業用水は近くの排水路や井戸からポンプで取水して利用しており、水量に限りがあります。生産性の更なる向上を求め、畑地かんがい施設整備が望まれています。

